

インターネットのサービス品質計測等の在り方に関する研究会第6回会合議事要旨

- 1 日時：平成27年2月2日（月） 15：30～16：45
- 2 場所：第1特別会議室（8階）
- 3 出席者（敬称略）
 - （1） 座長
相田仁（東京大学）
 - （2） 構成員
北俊一（野村総合研究所(株)）、木村たま代（主婦連合会）、長田三紀（全国地域婦人団体連絡協議会）、平野晋（中央大学）、廣松毅（情報セキュリティ大学院大学）、横田英明（(株)MM総研）
 - （3） オブザーバー
山崎拓（(株)NTTドコモ）、吉田智將（代理：毛利政之 KDDI(株)）、水口徹也（ソフトバンクモバイル(株)）、大橋功（ワイモバイル(株)）、菅田泰二（電気通信事業者協会）、今井恵一（テレコムサービス協会）、立石聡明（日本インターネットプロバイダー協会）、明神浩（電気通信サービス向上推進協議会）
 - （4） 説明者
阿波村聡 野村総合研究所(株)、花岡隆春 電気通信サービス向上推進協議会広告表示自主基準WG主査
 - （5） 総務省
吉良総合通信基盤局長、吉田電気通信事業部長、吉田事業政策課長、竹村料金サービス課長、河内データ通信課長、吉田消費者行政課長、飯倉電気通信利用者情報政策室長、山口データ通信課企画官、難波データ通信課課長補佐、神谷消費者行政課課長補佐
- 4 議事
 - （1） 研究会の進め方
 - （2） 実証実験
 - ・ 予備実証の状況報告
 - 電気通信事業者協会・上記を踏まえた本実証の要件及び内容
 - （3） 諸外国における実効速度計測の実施状況（アップデート）
 - （4） 質疑応答
 - （5） その他
- 5 議事要旨
 - （1） 研究会の進め方
事務局より「インターネットのサービス品質計測等の在り方に関する研究会 第6回以降の進め方（案）」（資料6-1）について説明し、了承を得た。

(2) 実証実験

阿波村説明者より「我が国のインターネットサービスの実効速度計測の調査研究」(資料6-2)について説明し、了承を得た。主な質疑等は以下のとおり。

【相田座長】

9 ページ目を見ると、計測場所によって計測結果のばらつきが大きい。このように場所によって速度に差があることを、利用者の皆様に理解していただくことが重要であり、最終的な広告表示の方法についても、そのことを踏まえた検討が必要。

【廣松構成員】

予備実証に関して、ある程度、計測方法が分かる形で実施されたことを高く評価。一方で、このような計測の場合に、物理実験のように真の値があつて、それをいかに正確に計測するかという問題ではないと考える。したがって、計測をする際に、どのような計画を立てて計測をしたか、その結果をどういう形で表現をするかということが本実証実験の一番重要な点ではないかと考える。その意味で、例えば計測結果の移動平均、や計測場所選定のランダムマイゼーションの手法等、丁寧な説明を付け加える必要がある。

【阿波村説明者(野村総合研究所)】

本実証実験の実施と計測結果の分析に当たって留意したい。

(3) 諸外国における実効速度計測の実施状況(アップデート)

北構成員より「諸外国におけるモバイルインターネット回線速度計測の状況」(資料6-3)について説明。主な質疑等は以下のとおり。

【木村構成員】

米国で、今のところモバイルの計測結果が公表されてない理由は何か。

【阿波村説明者(野村総合研究所)】

明確な理由は不明。様々なステークホルダーとの調節に時間がかかっているのではないかと推察。

【平野構成員】

2 ページ目に、米国の固定ブロードバンドでは、広告表示と実効速度の乖離等が地図上に表示可能という記載がある。各キャリアで広告表示に関するこだわりがあると思うが、表示できるように調整したということか。

【阿波村説明者(野村総合研究所)】

固定ブロードバンドに関しては、2011 年からレポートが出ており、それぞれの広告している速度に対して何%という結果を出しており、それをもう少し分解した形で公表していると考えられる。

【北構成員】

4 ページで、イギリスの場合、キャリアのどこが速いかという順位付けまで出しているが、同時に体感速度が利用するサービスにも依存すること、ネットワークは常に整備が実施されており将来の性能を表すものではないこと、利用者数が増えれば実効速度が下がるといったことも注記されている。このように、計測結果の数字が独り歩きしないように消費者の皆様に理解していただきながら、情報を提供していくことが重要。

(4) 広告表示検討の体制について

花岡説明者より「電気通信サービス向上推進協議会の体制」(資料6-4)について説明。

(5) その他

次回会合は未定。詳細は別途連絡とされた。

以上